

# 2022 年度教育開発助成金活動報告

## 教職課程を学ぶ学生のための 『教職ハンドブック』 新規作成

小嵯 麻由

### 1. 教育改革計画の概要

#### (1) 「全学教育推進機構 教育開発助成金」申請に至った理由

本学では、教員免許取得を目指して教職課程を履修しても、教職科目の履修や採用試験への不安から途中で断念してしまう学生が多いという現状があった。本学全学教育推進機構 教職課程に実務家教員として初めて小嵯、山下が着任してから 2022 年度で 4 年目となり、教育現場での経験から教職課程を学ぶ意義について折に触れ学生に伝え、教職を履修する学生全体のスキルアップを図ってきた。また次の世代の学校教育を担う人材育成のため、教員採用試験合格に向けて支援してきた。具体的には主に次の 3 点について取り組んだ。

##### ①情報共有と意見交換の場の設定

教職教育センター教職員、教職課程関係教職員、教職教育サポート室指導員が定期的に情報や意見を交換できる場を設定した<sup>1</sup>。ここでは教職を履修している学生の相談内容の集約や、学習の進捗状況、教員採用試験についての情報交換、教員採用試験対策講座の企画や運営について打合せを行っている。

##### ②教員採用試験対策講座の実施

2020 年度から毎年教員採用 1 次試験対策講座、2 次試験対策講座、基礎学力養成講座、模擬授業練習会など教員採用試験対策のための各種講座を企画し実施した。具体的には、教職教育サポート室指導員や外部講師による教員採用試験対策講習会、教職教育サポート室指導員による模擬授業や面接の指導、さらに願書や志望理由書、小論文の書き方指導などである。コロナ禍においては対面に加えて遠隔でも実施した。

##### ③教職教育サポート室に「メンター制度」を導入

「メンター制度」とは教職教育サポート室指導員をいわゆる各学生の担任とすることで、悩みや進路相談、あるいは、勉強方法や合格への導きとなる仕組みづくりである。元教員として勤務経験のある教職教育サポート室指導員が学生とコミュニケーションを繰り返し、継続的かつきめ細かい指導を行っている。

以上は軌道にのってきたが、この他にも本学の教職履修学生の支援となる取り組みがないかと考え、教職課程を設定している他大学に対して情報収集を行った。そのなかで、同志社女子大学教職課程センターが作成しているハンドブックに出会った<sup>2</sup>。これまで本学には、「資格に関する履修の手引き」という教職履修説明用の冊子があったものの、教職という進路選択に迷う学生の、様々な不安に応え

ようなハンドブックはなかった。学生目線に立った内容で、学生が常に手元に携帯して疑問に答えるバイブル的なハンドブックがあれば、指導に有効なのではないかと考えた。教育改革助成金を活用させていただいて初版を作成すれば、その後は改訂しながら継続的に発行することが可能であり、本学の学生にふさわしい独自のハンドブックの発行に着手することができると考えた。

## (2) 学生からの要望

作成にあたって、教職課程を履修している学生の要望を取り入れるべく、記載内容にどのような希望があるか、というアンケートを実施した。アンケートは2022年度教職課程を履修している2～4年次生、合計81名に対して2022年5月に行った。①教員採用試験について ②教員の仕事・現在の教育事情について ③教職教育センター・教職教育サポート室について ④上記以外に「こんな内容や項目があるとよい」「こんな本にしてほしい」などのアイデア の4項目で、すべて自由記述させた。

自由記述のすべてをユーザーローカルのテキストマイニングツールにかけたところ、特徴的な単語を拾うワードクラウドは以下ようになった(図1)<sup>3</sup>。ここから学生が掲載を希望する内容として「教員」「教職」「模擬授業」「教員採用試験(教採)」といった単語に続き、「教育実習」「講座」「サポート」などの言葉が続く。これらに関する内容に関心が高いことがわかった。

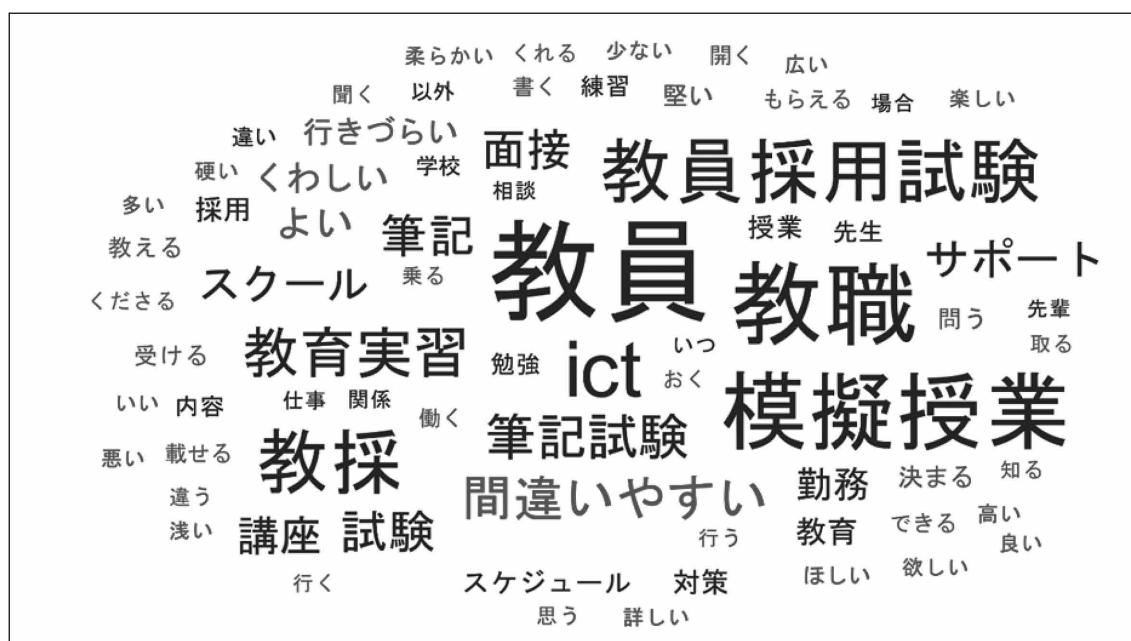


図1. 教職履修学生事前アンケート 自由記述のワードクラウド

このアンケートで得たすべての学生の記述を、執筆者である小嵯、山下両専任教員と教職教育サポート室指導員で共有し、ハンドブックの項目立てや執筆内容に反映させた。

## (3) 先行実施している大学の情報収集

教職履修学生向けのハンドブックを毎年発行して学生に配布し活用している、同志社女子大学教職課程センターに赴き、作成の中心となっている大黒孝文教授から作成方法や活用方法についてお話を伺った。この時大黒教授のご厚意により、過去に発行した同志社女子大学のハンドブック『教職アプローチ』を数冊、見本として頂き、本学用のハンドブック作成に大いに参考にさせていただいた。

## 2. 『教職ハンドブック』の概要

### (1) 『教職ハンドブック』作成の方向性

執筆項目は教職課程を履修している学生の声も反映させ、教職を志す学生が疑問に感じている内容についてQ & Aの形式で作成し、学生の不安を解消するものとした。教職課程の履修から教員採用試験、教育大学大学院進学、講師登録、教員としての新着任、教員生活までを解説し、長期間にわたって教職教育の指導に資する内容になるよう項目を整理した。また学生が常時携帯し必要に応じて活用できるものにするため、コンパクトな装丁に仕上げることにした。

### (2) 仕様

以下に本ハンドブックの仕様を示す(表1)。

表1. 『神戸学院大学 教職ハンドブック』仕様

名称	『神戸学院大学 教職ハンドブック』
造本仕様	A5判 161頁
著者	神戸学院大学全学教育推進機構講師 小嵯麻由、山下恭
編者	神戸学院大学全学教育推進機構講師 小嵯麻由、山下恭
発行	神戸学院大学
執筆者	特任講師：小嵯麻由・山下恭、2022年度サポート室指導員10名
配布対象	神戸学院大学教職課程履修の2年次生以上の学生、教職担当教員 教職関係事務職員、教職教育サポート室指導員 その他希望する学内関係者および本学卒業生
刊行	2023年4月1日
初回発行部数	600冊 次年度以降2年次生向けに200冊ずつ発行(必要部分は改訂)

### (3) 具体的な内容項目

執筆は本学の教職教育サポート室指導員にも協力を仰ぎ、全学教育推進機構教職課程担当の小嵯、山下と、指導員で分担して行った。編集会議を経て具体的な項目は以下の通りとなった(表2)。

表2. 『神戸学院大学 教職ハンドブック』内容項目

章	小見出し	項目数
1章	教員採用試験に対する基礎知識をつけよう	36項目のQ & Aを記載
2章	教員採用試験、介護等体験、教育実習に向けて	17項目のQ & Aを記載
3章	面接試験対策をしよう	15項目のQ & Aを記載
4章	専門教科の学力をつけよう	12項目のQ & Aを記載
5章	今の学校、これからの学校を知ろう	13項目のQ & Aを記載
6章	教員の仕事を知ろう	25項目のQ & Aを記載
7章	教職教育センター・教職教育サポート室 参考資料など	6項目のQ & Aを記載
	後輩へのメッセージ	4名の卒業生教員の寄稿

当初の計画にはなかったが、第1回の編集会議において、本学卒業生で教職に就いておられる方や教職大学の大学院に進学した方に、後輩へのメッセージを寄稿していただく案が浮上したため、4名の卒業生教員の方に依頼したところ、快くお引き受けくださった。

#### (4) 作成の流れ

執筆者が複数であるため、作成の趣旨説明や執筆要項、文体や体裁、校正の方向性などの統一を図る必要があった。このため計3回の編集会議を行った。以下に作成の流れを表にまとめる(表3)。

表3. 『神戸学院大学 教職ハンドブック』作成の流れ

2022年4月	教職課程履修学生に対するアンケートを行い、学生のニーズを把握 サポート室指導員との懇談会で教職ハンドブックの概要説明・執筆依頼 執筆のためのUSBメモリ、文房具などを配布 遠隔勤務の指導員に対して物品などを郵送
5月	小嵯、山下が同志社女子大学を訪問し先行実践についてお話を伺う 執筆予定者の編集会議(1)を実施
8月	執筆予定者の編集会議(2)を実施。原稿の集約
9月	原稿の修正
10月	印刷業者に出稿
11月	執筆予定者の編集会議(3)を実施。原稿の集約。校正の方向性確認 校正(～2月)
3月	納品、執筆者への原稿執筆手数料支払い 教職履修学生・教職担当教員・教職課程事務職員、指導員へ配布

### 3. 『教職ハンドブック』の有効活用

2023年度の2年次生、3年次生に対しては、教職履修ガイダンスでこの『ハンドブック』を配布し、発行の趣旨を口頭で説明した。また各学年直近で役に立つと思われるページを示しその場で確認させた。4年次生には教育実習事前指導の1日目にハンドブックとアンケートを同時に配布し、2日目までに熟読させてアンケートを提出させた。アンケートには今後の活用や改善のために感想、意見なども記入させた。教育実習事前指導は教員免許取得のための必須科目であるが、この授業では小嵯、山下のほか人文学部教職担当の立田、井上両先生もハンドブックを活用して授業を行った。さらに2023年度、小嵯、山下の担当する教職課程関係科目においては、初回と2回目の授業で『教職ハンドブック』に触れ、授業内容と関連あるページについて実際に開いて読み、解説を行った。

本ハンドブックは教職を目指す学生にとって道標としての意味もある。今後も、模擬授業をする、教員採用試験を受験する、講師や教員として教育現場に立つなど、教員になるまで折に触れてこの『教職ハンドブック』を開き、自主的に学ぶ手掛かりにするよう促す。同時に複数名いる教職担当教員やサポート室指導員が、共通理解を図りながら指導する教材として活用する。

## 4. 本実践の成果と課題

### (1) 学生の感想・意見

2023年度教職を履修している4年次生にアンケートを実施した。選択項目は、①『教職ハンドブック』は教職履修の学習に役立つと思いますか ②『教職ハンドブック』は進路選択に役立つと思いますか ③『教職ハンドブック』は教員採用試験に役立つと思いますか の3項目で、1 そう思わない 2 あまりそう思わない 3 まあまあそう思う 4 非常にそう思う の4段階で回答させた。また感想と改善点の自由記述を求めた。選択項目の集計は以下の通りである(表4)。2023年3月24日実施 2023年度4年次生 教職履修者70名中アンケート回答者数59名。

表4. 教職履修学生事前アンケート

項目	1	2	3	4	無回答	平均値
教職履修の学習に役立つと思いますか	1	0	15	42	1	3.69
進路選択に役立つと思いますか	2	4	23	29	1	3.36
教員採用試験に役立つと思いますか	2	0	14	41	2	3.65

4年次生の評価は概ね好評と言える。数値の低い学生が数名いるが、すでに教員以外の就職先が決定している学生が、今のまたは今後の自分にとっては「役に立たない」と判断して回答したようだ。

自由記述もポジティブな評価をする学生が多かった。以下に全自由記述をテキストマイニングにかけた図を示す(図2)。

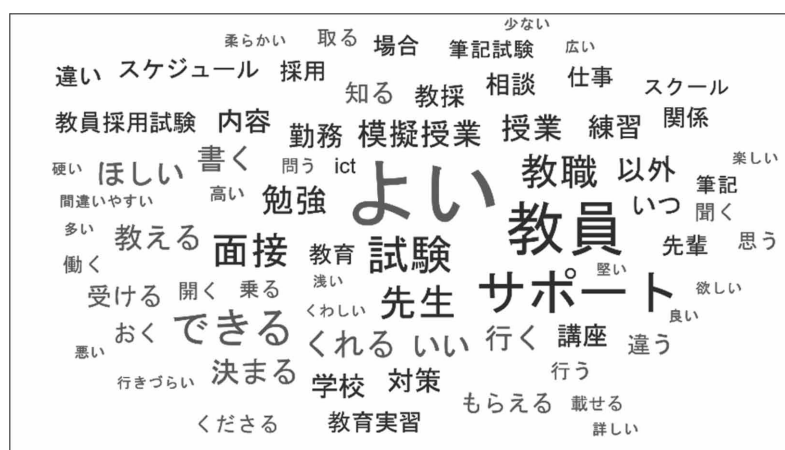


図2. 教職履修学生事後アンケート 自由記述のワードクラウド

図2は「よい」が際立っている。同じ自由記述をもとに共起キーワードのワードクラウドを作成してみると、「よい」は「教職」「履修」「指導」「授業」「教採」「ハンドブック」などの言葉との結びつきが多く、教職履修学生に直結する内容についてポジティブに評価していることがわかる<sup>4</sup>。

一方で、要望としてあがった内容は次の通りである。

- ・もっと早く欲しかった。
- ・過去の先輩方の体験談やアドバイス、また実際に今教師として働かれて

いる方の声がきけるような項目がほしい。・印刷代が高くなってしまいかもしれませんがもう少し時間が欲しい。・教員採用試験対策について具体的な勉強方法や参考にする問題集についてまとめた記事が欲しかった。・この授業は取っておいたほうがいいのか、おススメの授業欄などがほしい。・身だしなみ、メイクの濃さや色、実習時と採用試験の違いなどの社会人のルールのような項目がほしい。・データでの配布もしてほしい。・教職履修生に向けて、授業中にハンドブックを活用する機会があってもよい。・指導案や板書例などをいくつか載せておくと初めて模擬授業をする教職履修生の役に立つ。・場面別にどの人に相談したらいいのかということに記載していると教職履修生の下級生がもっと人に頼る機会が増えるのではないかと。・どの章をどの先生が執筆されたか分かれば書かれている内容について質問しやすくなる。・試験に落ちた場合の進路の記載が欲しい。・女性教員の働き方のスズメ等があると、よりこれからの時代に合う。・4年間の大体の流れ、予定を表にする。・文字が多い。内容に関する絵、カラーになると読みやすい。

## (2) 教職教育サポート室指導員の感想・意見

執筆協力を依頼した教職教育サポート室指導員にも感想、意見を求めた。選択項目の集計は以下の通りである(表5)。2023年4月21日実施 2022年度教職教育サポート室指導員10名中回答数8名。

表 5. 教職教育サポート室指導員事後アンケート

項目	1	2	3	4	平均値
教職履修の学習に役立つと思いますか	0	0	2	6	3.75
進路選択に役立つと思いますか	0	0	3	5	3.63
教員採用試験に役立つと思いますか	0	0	2	6	3.75

また、①作成過程について ②今後の活用場面 ③感想・意見 の3点について自由記述を求めた。自由記述の記載は紙面の関係で割愛するが、学生の感想・意見と同様、内容を精査し来年以降の改訂に反映させたい。

## 5. 今後の展望

配布後間もないため、まだ長期の成果を数値化することができないが、配布直後の4年次生および指導員の感想や、教職関係の教職員に配布した際の感触は概ね好評である。今回全学教育推進機構の教育改革助成金の支援を受け、新規に本学独自のハンドブックを作成・刊行、配布できたこと自体が成果であり、本学の教職課程履修学生にとっても、関係教職員および指導員にとっても、今後の活用が期待できる。

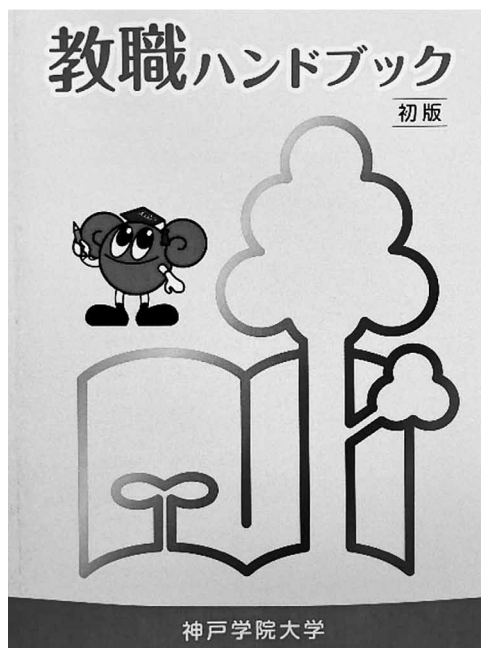
ただし教職および教員採用試験をとりまく環境はここ数年変化が非常に大きく、大学の教職課程および教職履修学生への支援は柔軟な対応が迫られている。本ハンドブックも必要な部分は毎年少しずつ改訂し、新しい情報を提供するものとしなければならない。今後は教職教育センターの予算を使用して継続的に発行、活用していきたい。また学生や教職教育サポート室指導員の事後アンケートに記載された要望に応え、改善できる点は改善し、より利便性のある冊子となるよう努め、本学教職履修学生の資質および学力向上、キャリア形成に寄与したい。

## 注

- 1 本学のポートアイランド第2キャンパス（KPC2）1号館1階と、有瀬キャンパス（KAC）6号館5階に1部屋ずつ教職教育サポート室が設置されており、教職教育サポート室指導員という教員経験者が曜日ごとに交替で常時勤務している。指導員は学習相談、進路相談、模擬授業の指導、中学校高等学校教科書など教員養成関係書籍の貸し出し、教員採用試験対策の助言など教職履修学生の支援を行っている。
- 2 (株)ユーザーローカルのテキストマイニングツールは、入力したテキストのなかで出現頻度の高い検索ワードを集めた図を作成する。出現回数や出現の仕方などが確認可能である。文字の色でも分析結果を示すことができるツールであるが、本稿では印刷上色を示すことができない。ユーザーローカル テキストマイニングツール <https://textmining.userlocal.jp/>（最終閲覧2023年4月16日）
- 3 同志社女子大学には教職課程センターが設置されており、教職課程履修者、特に教職を第一志望とする学生サポートを目的に、教職課程履修上の相談や教員採用試験合格に向けた学習方法、採用後の実践的指導力養成のための助言や指導を行っている。
- 4 前出の(株)ユーザーローカルのテキストマイニングツールでは、どの検索ワードが一緒に使われやすいかを確認するため、共起頻度が高い検索ワードを線で結んだ図を作成することが可能である。紙面の関係でこの図は掲載していない。

## 謝辞

本プロジェクトは2022年度神戸学院大学教育改革助成金を受けて行ったものです。実施にあたっては、前教職教育センター所長生田卓也先生、全学教育推進機構特任講師の山下恭先生、教職教育センターサポート室指導員の皆様、教務教職担当の皆様、全学教育推進グループの皆様にご尽力いただきました。また『教職ハンドブック』に快く寄稿してくださった本学の卒業生教員の方、執筆項目や内容に前向きな意見を提案してくれた教職課程履修学生たちにも、ここに感謝の意を表します。



『神戸学院大学 教職ハンドブック』初版